

資料2

報道発表資料  
平成27年8月21日  
気象庁

## 桜島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

桜島では、現時点では、規模の大きな噴火が発生する可能性は8月15日時点に比べて低下していますが、今後の活動の変化を注意深く監視する必要があります。

桜島では8月15日から16日にかけて、南岳直下を震源とする火山性地震の活発な活動と、山体の膨張を示す急激な地殻変動が観測されました。これらの活動は、南岳直下の海面下1から3kmを中心とする領域にマグマがダイク状に貫入して、圧力が増加したことにより発生していると考えられます。干渉SARとGNSSを用いた解析では、地下の体積膨張量は約200万立方メートルと見積もられています。

これまでのところ、今回貫入したマグマがさらに火口近くまで上昇していることを示す兆候はみられていません。現時点では、規模の大きな噴火が発生する可能性は8月15日時点に比べて低下していると考えられます。再びマグマ貫入がある場合などには、桜島の火山活動の活発化は避けられないものとみられ、引き続き火山活動の変化を注意深く監視していく必要があります。